

11/27 朝日

沖縄県の米軍新基地天間基地（宜野湾市）に代わる新基地辺野古の新基地建設をめぐり、玉城「一知事は、埋め立て予定海域で見つかった軟弱地盤の改良工事をために政府が申請してした設計変更を不承認にしました。」 知事の決走は、「マリネース並み」の軟弱地盤が広がる海域に豊かな自然を破壊して巨大な軍事基地を建設する「いかに不合理で、不適切であるか」を示すものです。設計変更が認められない限り、新基地は完成しません。計画の破綻はよく理解です。政府は全ての工事を直ちに止めてください。

## 「辺野古不承認」主張

由を次のとおり申します。

▽水面下80mに達する軟弱地盤の最も深い地帯において政府が水面下70mまで改修工事をすれば安定性は保てるとしている点に関して、残る20%の未改修層の性状を確認するための必要な試験が行われてこなかったため、公有水面埋め立て工事は「十分な配慮」に適合しない、などです。

あまりにすばんな計画である」として、公有水面埋め立て工事は「悲惨な戦争を体験した民衆、国民や選択の意思を尊重する行為は絶対にあってはならない」と人道上許されるべきではない」と強調

## 政府は全ての工事を中止せよ

立法が承認の要件となる「災害防護のための計画」は明確かですか。

止への十分な配慮は施していない。加えて、政府の設計変更申請で埋め立て工事を始める前に必要最低限の地盤調査をすべきであった船舶が航行している状況から、シーコンへの影響を調べるために水中の調査などを実施可能なだけ、それを実行してしまった。また、地盤改良のため約一方6千本の杭を打つことによって海底地盤が盛り上がり、それが環境に及ぼす影響についてのデータが収集されていない。これらのことから、公有水面埋立法が定められた環境保全への十分な配慮」に適合しない、などです。

新基地への声を結果的にこのままでは、新基地は完全に出来ない」と強調

岸田文雄政権は、今回の不承認の決定に対し、これまでの反対手段を取る構えです。しかし、政府の設計変更申請について、沖縄県内外、国外から一万マウスの声の意見が輿論に寄せられ、その全てが肯定的なものだったといいます。

今回の設計変更申請は、政府が埋め立て工事を始める前に必要最低限の地盤調査をすべきであった辺野古新基地、普天間基地の南端から土砂を採取し、新基地建設の影響を考慮可能なものだ、設の埋め立て工事に使用する可能性が示されています。この問題は、開拓・撤去の声を廻らせて、沖縄県のたぐいみを許さない」とある。「(ト)一知事」が承認したと全く合致しません。